



A班報告会発表

大野木 諒
浅見 真帆

三橋
中田

拓実
都希

川名
藤井

雪花
詩帆

目次

- (1) ツアー内容
- (2) ツアー中の情報発信方法
- (3) これからの情報発信～意義～
- (4) これからの情報発信～方法～
- (5) まとめ～総括～



ふくしまから
はじめよう。



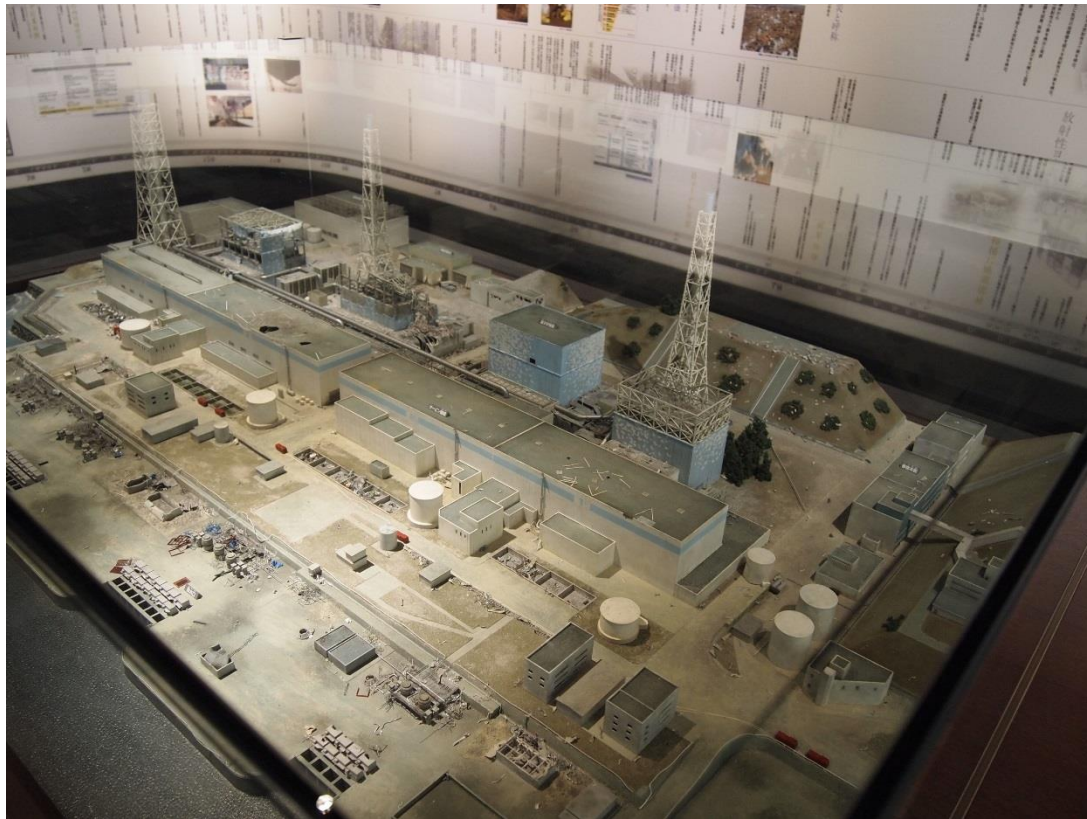
(1) ツアー内容

1日目

コミュタン福島→Jヴィレッジ→国道6号線→小高ワーカーズベース→旅館



コミュニティ福島



震災からの復興の道のり
と今後の福島について
学べる施設

2011年の震災で何が起
きていたのかを改めて実
感

福島に来なければ知るこ
とのない情報を得ること
ができる



ふくしまから
はじめよう。



コミュニティ福島

震災前は日本の食生活を
支えていた福島

しかし...
原発事故による風評被害

福島県産の農林水産物は
厳しい検査を通過する
→安全

しかし...
人々の安心に
つながっていないのが現状



ふくしまから
はじめよう。



コミュタン福島



原発問題を解決するためには...

原発に関して知ることがとても重要!!

身近なものから興味を持つ

・霧箱とは...

普段は見えないが空気中には放射線が存在している

→可視化することができる



ふくしまからはじめよう。



コミュニティ福島



確かに福島は失ったものが多すぎる

しかし、震災前よりも福島に対する**期待は大きい**のだと感ずることができた

今後の福島での復興活動は県民だけでなく、国民の期待を背負っている



Future
From
Fukushima.

ふくしまからはじめよう。



Jヴィレッジ



サッカー日本代表のナショナルトレーニングセンター

震災直後は原発事故の対応拠点として活躍

現在は休止されているが2018年7月から再オープン



ふくしまからはじめよう。



Jヴィレッジ



2006年ドイツW杯の際にはJヴィレッジで国内最終調整を行い本番に挑んだ

今後は日本代表のキャンプ地となるだけでなく若い世代の育成や福島の観光施設として期待されている

p.s. 海沿いなので風がめちゃくちゃ強かったです



ふくしまからはじめよう。



国道6号線

2017年 8月



2018年 2月



復興が進んでいる地域もあるが原発の影響により未だ手付かずに地域が存在する



ふくしまからはじめよう。



国道6号線



そして、あちらこちらに
フレコンバッグが点在し
ている

この袋を見るたびに震
災が起こったということ
を実感する

いつになったら無くなる
のだろうか...



ふくしまから
はじめよう。



福島県南相馬市小高区



震災前は人口4000人の町
で産業や文化の伝統が続
いている

震災後...

- ・**帰宅困難区域**となり避難
を余儀なくされる
- ・人口は2500人まで**減少**
- ・小中高が再開されたが生
徒数が**減少**
- ・他地域への避難や電車で
の通学



Future
From
Fukushima.

ふくしまから
はじめよう。



小高ワーカースベース



(引用:小高ワーカースベースHP)

小高区への帰還者が
増えない



小高区に帰還する住民
の暮らしを支えるビジ
ネスを展開

ビジネス例

- ・コワーキングスペース
の設立
- ・おだかのひるごはん(食
堂)open
- ・東町エンガワ商店開設
- ・HARIO ランプファクト
リー開設



ふくしまから
はじめよう。



小高ワーカーズベース

課題は山積みでゼロからの出発

しかし...逆に**可能性大!!**

地域の100の課題から100のビジネスを創出する

Mission: 課題を一つ一つ解決する

震災当時: 建築や除染の仕事をする事業者は少なからずいた
サービス業は... いない

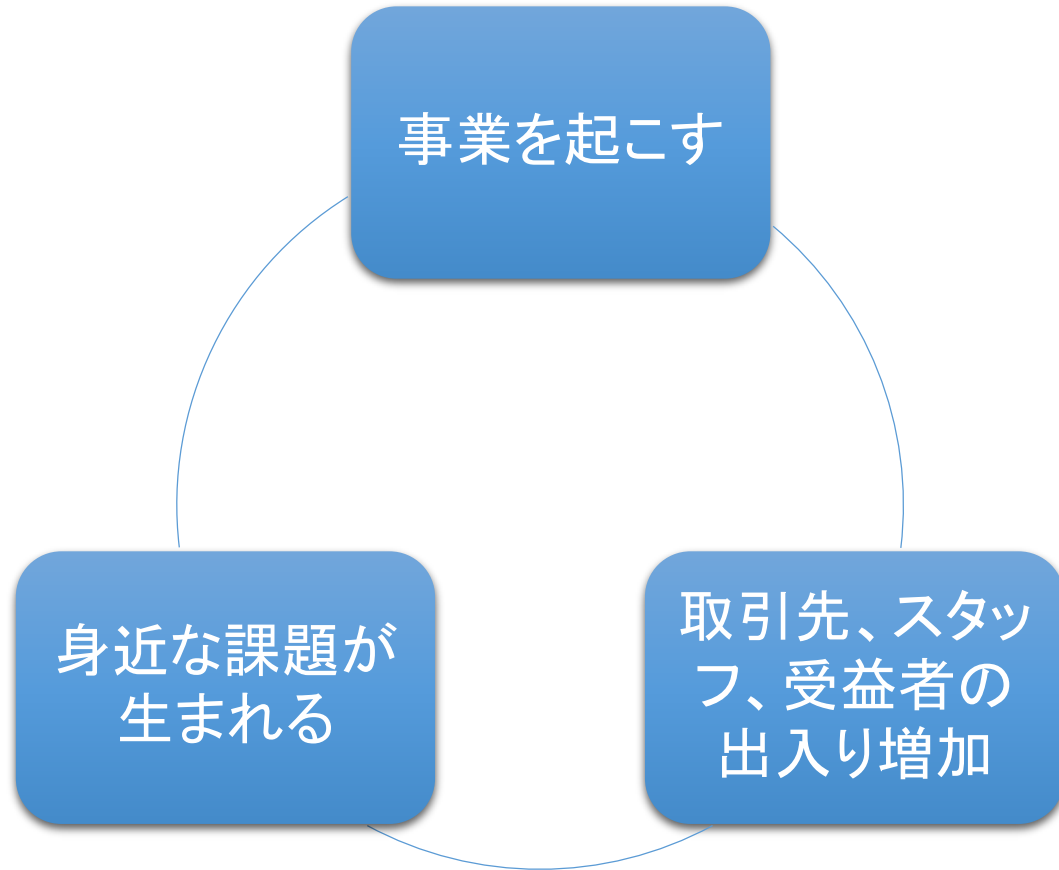


ふくしまからはじめよう。



小高ワーカーズベース

～地域経済のあり方～



地域での必要なことが次々に生まれ、事業を起こし一つ一つ解決

課題の発見と課題の解決は**循環**している



Future
From
Fukushima.

ふくしまからはじめよう。



東町エンガワ商店



- ・再開の目星が立っていない地域のスーパーやコンビニにかわって日用品を販売
- ・**学びの実践の場**(地域実践型)として活躍



ふくしまからはじめよう。



東町エンガワ商店



- 地元の高校生がお菓子などの若者向けの商品にPOPを作り宣伝



- 地元との協力することは若い世代の教育にもつながる

- ※そのことが地元の新聞記事に掲載



HARIO Lampwork Factory



- ・ガラスアクセサリーの生産や販売
- ・女性をターゲットに

避難区域に若者が戻らない理由

魅力的な

- ・仕事
- ・職場 が少ない
- ・働く環境



- ・帰還意識が高まる
- ・高齢化問題の解決



ふくしまからはじめよう。



HARIO Lampwork Factory



ターゲット:

20,30代近くの若い女性

- ・企業だと方向性が見えなかったり...
- ・ライフイベントを優先したい!!

女性向きのポイント

- ・素人からでも始められる
- ・成果報酬
(好きなときに好きなだけ)

→ 自由な職場環境を作ることが大事



ふくしまからはじめよう。



HARIO Lampwork Factory



店頭での販売風景

HARIOでは職人の高齢化
が一つの問題となってい
た
→一つの解決策に

おしゃれで、手に職がつ
きやすいので多くの人
が興味を持てる

生産だけでなく技術があ
る人は教室を開くことが
可能



旅館



旅館から見える
松川浦大橋



なぎさの奏 夕鶴

〒975-0022

福島県相馬市尾浜字追川

147 TEL 0244-38-7111

FAX 0244-38-6355

海の近くで、とても綺麗な宿
でした



ふくしまから
はじめよう。





2日目

相馬ソーラーパーク→和田観光苺組合→たこ八→報告会



相馬ソーラーパーク



敷地面積：約684000m²

震災によって塩害になった土地を有効利用

1年間で16,600世帯の電力をまかなうことが可能



ふくしまからはじめよう。



相馬ソーラーパーク



原発事故を経験



再生可能エネルギーへの可能性を見出すため

福島から実行

→国内へ、世界へ
広げていく



Future
From
Fukushima.

ふくしまからはじめよう。





情報を伝える一つのツール = 食

始めたきっかけ
「避難者として、避難者としての手助けを行う」

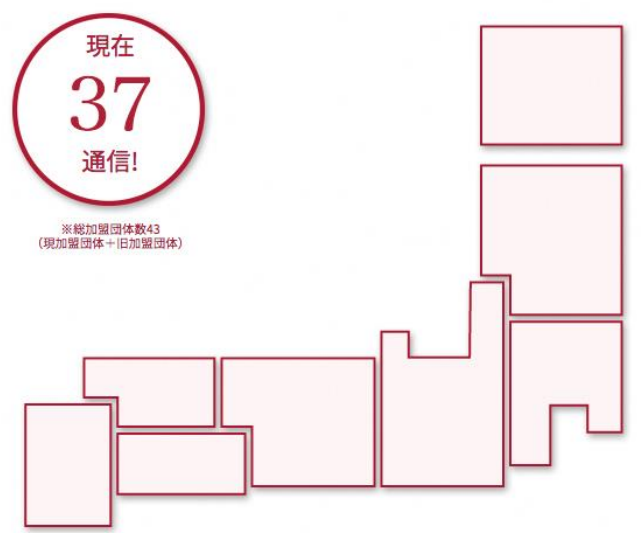
風評被害に苦しむ
→ 食の安全を伝える

放射線 < 食品添加物

地元の子供達は
地元のものを食べるべき

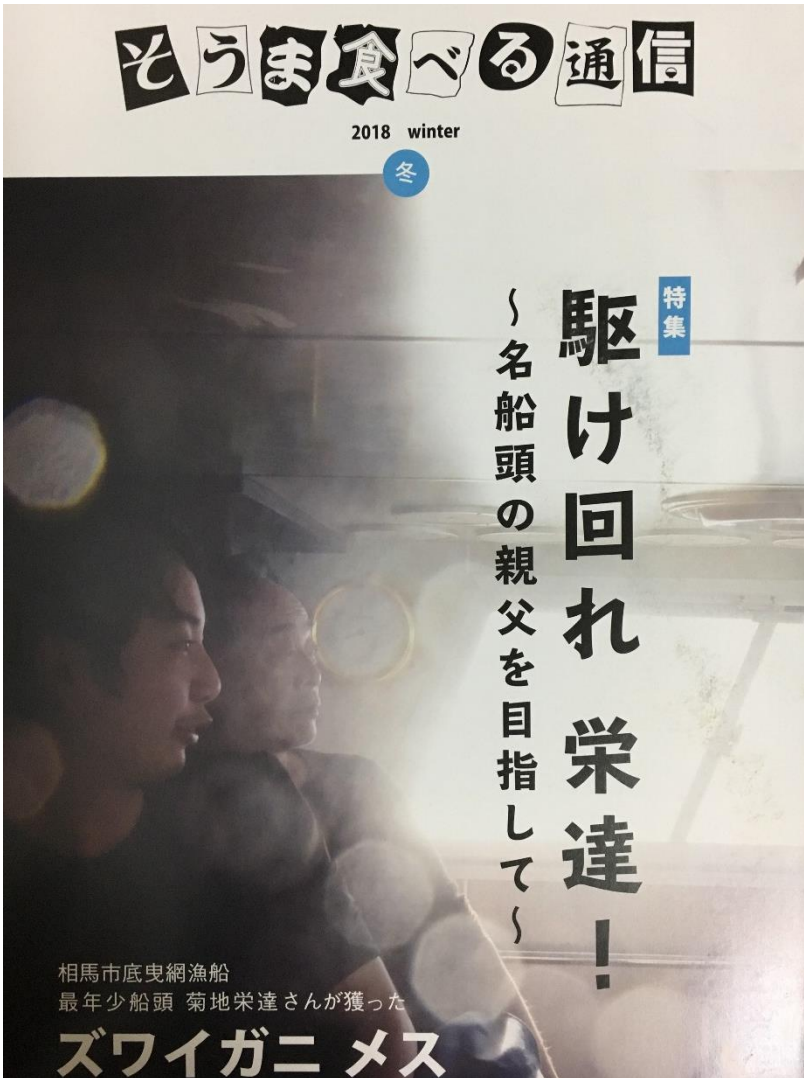
食べる通信一覧

北海道 ▾ 東北 ▾ 関東 ▾ 中部 ▾ 近畿 ▾ 中国 ▾ 四国 ▾ 九州/沖縄 ▾ テーマ型 ▾



(引用: 日本食べる通信リーグ)

そうま食べる通信



相馬食べる通信

情報誌と食材がセットで届く
(全国37カ所で実施)

しかし

全員素人

→クオリティーでは勝てない
他の地域と何で差をつける?

そうまらしさ

相馬の人に喜んでほしい



ふくしまからはじめよう。



そうま食べる通信

作業を分担し7人で一から作り上げる

しかし...全員自分の仕事がある



できる人ができる時に作業を行う

見えない苦労を経て、読者に届く



- 生産現場に興味を持てる(訪れてみたい)
- 安心につながる
- 信用してもらえらる



Future
From
Fukushima.

ふくしまから
はじめよう。



そうま食べる通信

利益は**赤字**...だが
利益を求めているわけではない

赤字でも地域の人々のためにやる意味がある

これは地域に対する**投資**
何と言っても**楽しい**

今後の課題

- ・SNSの利用(忙しいので出来ない)
- ・若者の登用、インターンによる学生の登用



和田観光苺組合



苺の種類: 6品種, 約49000株
敷地面積: ハウス21棟
約7000平米

美味しいイチゴ狩りを体験
出来る

東北でのイチゴ狩りはあまり
浸透していなかった



多くの来場客がイチゴ狩りを
体験
人気が沸騰



ふくしまから
はじめよう。



和田観光苺組合



震災によって
ハウスの崩壊や塩害の
被害を受ける

全国から**多くのボランティア**が駆けつけ復興へとつながった

課題

- 職人の高齢化
- 苺作りへ興味を持ってもらう



たこ八



たこ八

住所: 福島県相馬市
尾浜字原228-25

美味しい昼食を
いただきました...



ふくしまから
はじめよう。





(2) ツアー中の情報発信



ふくしまからはじめよう。



(2) ツアー中の情報発信

ツアーで回ったところをTwitterやInstagramを用いて情報発信



#ふくしまスタツアのタグをつけて発信



ツアー前と後でのイメージの変化

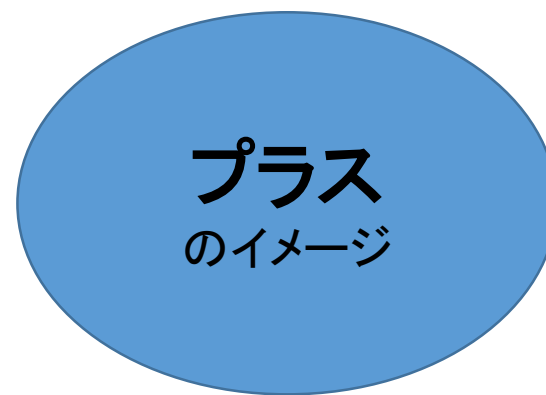
ツアー前

- ・復興が進んでいない
- ・放射線汚染がひどい
- ・報道自体少なくなり実情が分からない



ツアー後

- ・津波の被害を受けた海沿いの復興が進んでいた
- ・課題は残っているがこれからの可能性がある



印象に残ったこと

このツアーを通して学ぶべきことはとても多い

- 震災だけでなく原発事故について学べる
- 再生可能エネルギーについで学べる
- 過疎について学べる



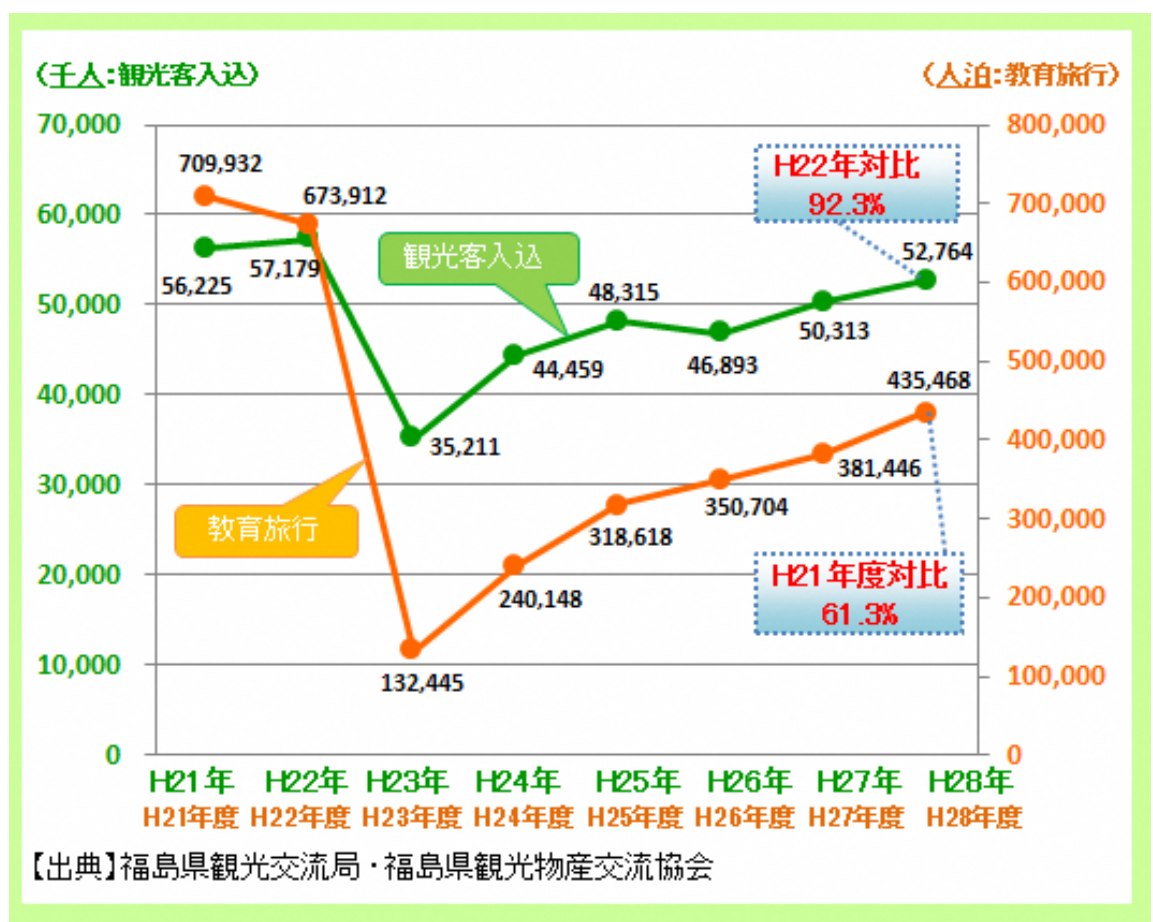
これらを学校教育へと活かすべき



(3)これからの情報発信 ～意義～



福島県内での教育旅行数



・震災以降の教育旅行数

大きく減少

・現在は回復傾向
しかし
震災前よりも**少ない**



情報発信を行う意義

私たちは何も知らない。
でもこんなことが起きたのは
日本でも、世界でも福島だけ。



だからこそみんなに来て欲しい。

京都に行ったことがあるのが当たり前みたいに
「**福島に行ったことある**」が当たり前となる未来にしたい。



情報発信を行う意義

このような地域は日本で、そして世界でも福島だけなので
学ぶ価値がある

将来を担う世代にとって「**福島に行ったことがある**」

これを当たり前にする未来を作るために...

子供のうちから福島を訪れる必要がある

そのためには？ **教育旅行の増加が欠かせない**



修学旅行でふくしまに来るメリット

- 自分たちが使うエネルギーについて考えられる
- 全国的に大きな問題である過疎について考えられる
- 東日本大震災、原発事故を風化させない

実際、福島県によるホープツーリズムなどのPRや施設の建設
〈修学旅行で訪れる施設例〉

- コミュタン福島
- イチゴ狩り
- 小高ワーカースベース
- 道の駅





情報発信を行う意義

では、大学生に何が
できるのだろうか？

しかし、ツアーに参加したのは大学生

実際に小・中学生の教育に関わるのは**難しい**

そこで...

大学生 ~~→~~ 小・中学生

大学生 **→** 大学生

大学生に対しての積極的な発信

今の大学生はこれからの親になる世代

「今から、大学生に福島に行く必要性を発信する」

→ 将来福島を訪れる子供の数の増加につながる

情報発信を行う意義

今の大学生が福島を訪れる
→ 友達を巻き込む



将来の自分たちの子供へと伝えていく
→ **風化を防止**

大学生 → 大学生への発信

まず大学生がふくしまへ
その家族もふくしまへ



Future
From
Fukushima.

ふくしまから
はじめよう。



(4)これからの情報発信 ～方法～



これからの情報発信～方法～

① SNSで発信

- ・マクロの発信

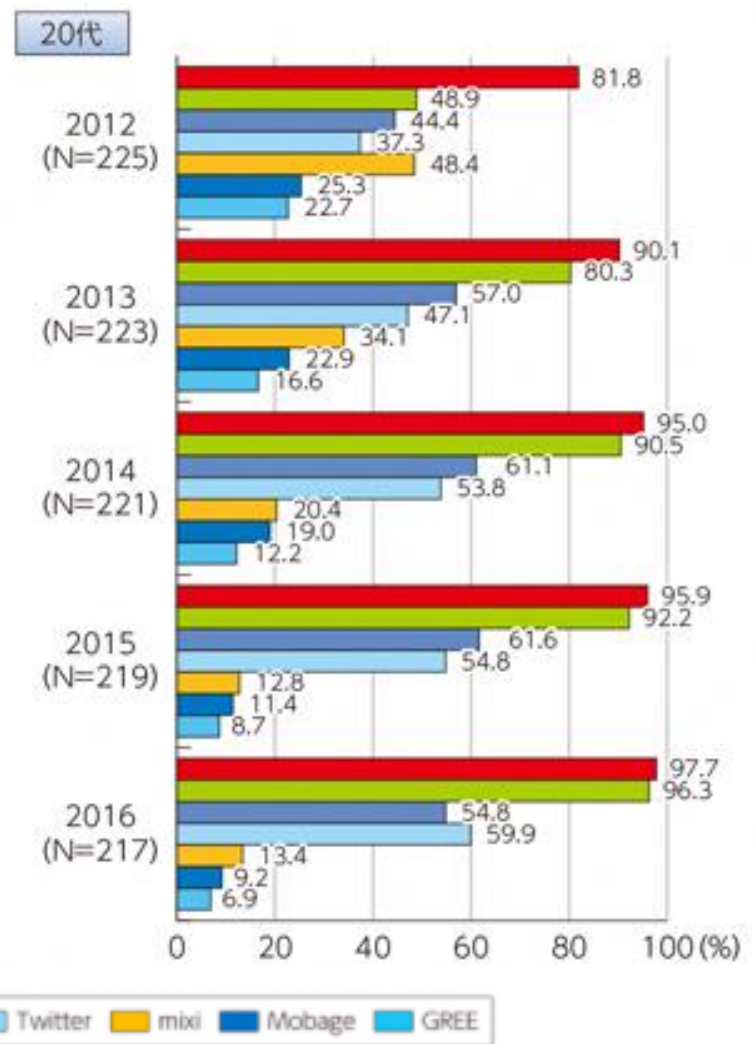
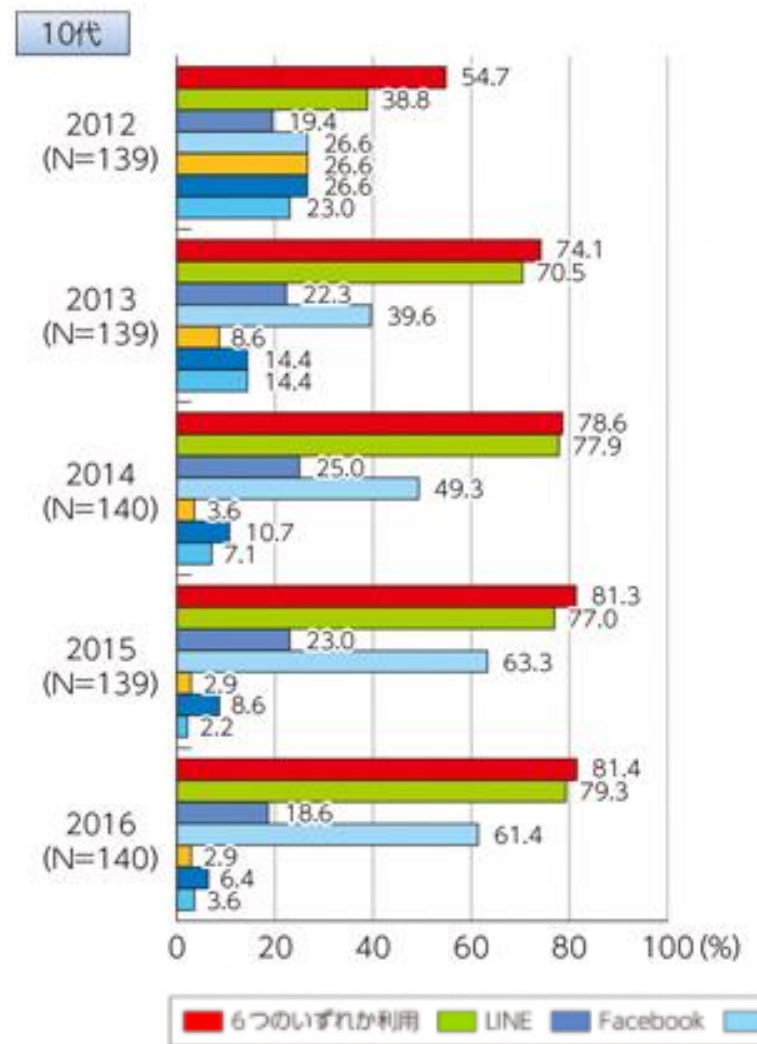
② 大学を使つての発信

- ・ミクロの発信





① SNSで発信 代表的なSNSの利用率



(平成29年度版 情報通信白書より)

SNSの利用

10代、20代では**圧倒的**な使用率

2016年の20代のSNSの使用率は**90%越え**

多くのSNSアプリには「いいね」機能が付いている

→よかった投稿はその機能により不特定多数の人に**拡散**できる

1人から2人、2人から3人・・・気づいたら100人以上の人が見ているかもしれない

SNSの利用は若者らしい情報発信方法の一つ



ふくしまからはじめよう。



② 授業を使っっての発信



授業を使つての発信

今回スタディーツアーはみんな福島に興味があつて参加

大学の授業では...様々なジャンルの授業を選択

福島に来た多くの理由は大学の授業を通して福島に興味を持った

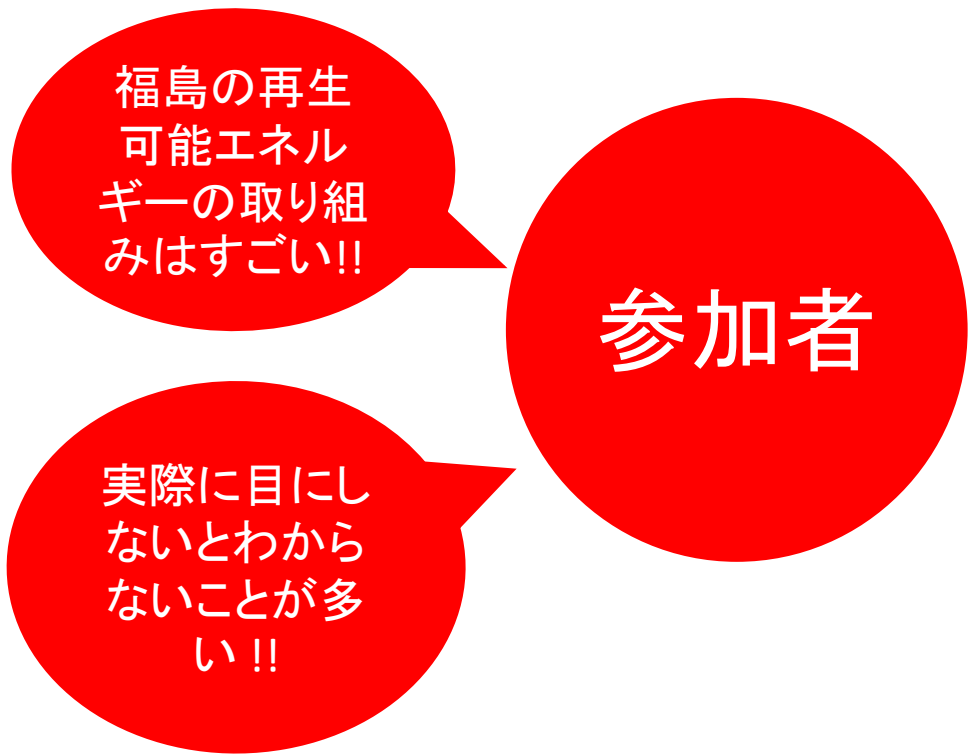
では実際に福島に行った我々が他の学生に伝えればどうなるのだろうか？

我々が発信することには説得力がある

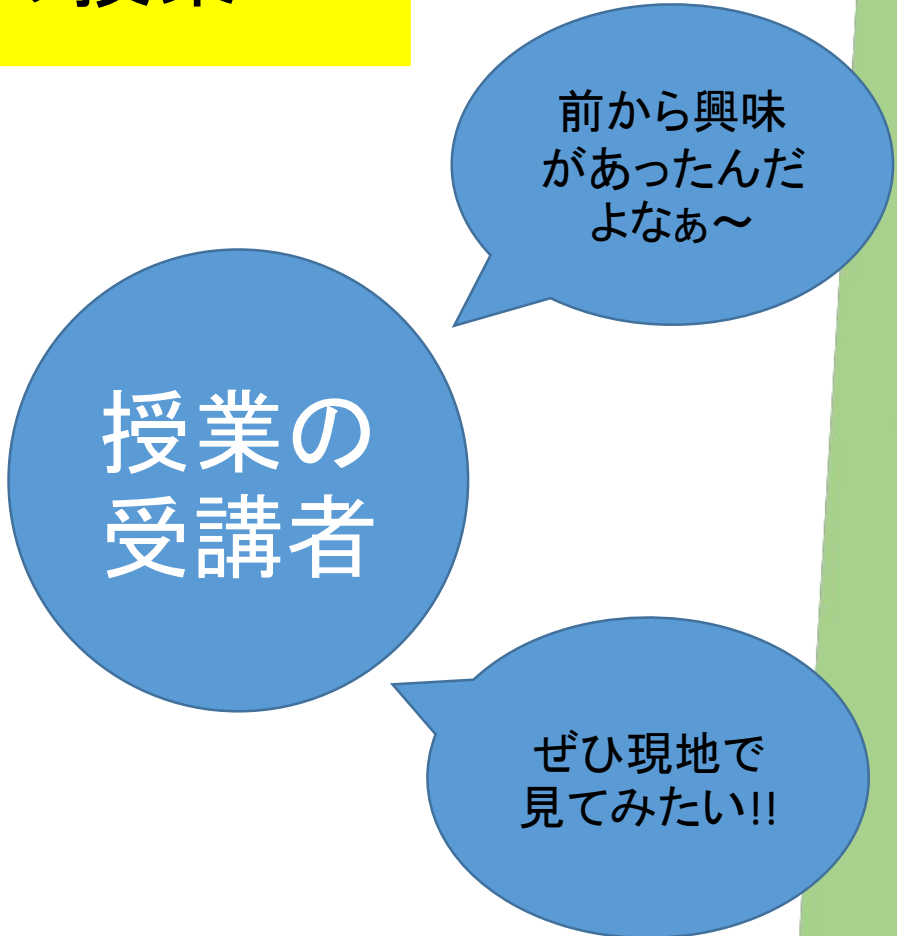


授業を使って発信 具体例

とある再生可能エネルギーの授業



→
発信



授業を使つての発信

授業の5分あるだけで不特定多数の人に聞いてもらえる

いろいろな授業で行えば、さらに多くの人話が耳にする

ツアーの参加者がそれぞれの大学で行えばさらに多くの人話が耳にする...

福島への興味、関心が高まる

意識の高い人が福島を訪れるきっかけになる

→**SNSでの発信**につながる



(5)まとめ

～総括～



まとめ～総括～

今回様々な施設を訪れたり、
お話を伺うことができた



人によって感じ方、印象は大きく異なる

SNSによる個性のある情報発信をすることにより

自分の印象を簡潔に多くの人へと発信できる
...プラスでもマイナスなイメージでも率直に伝えることが大事



ふくしまから
はじめよう。



まとめ

我々が感じた印象ぜひ子供たちに伝えたい
でも大学生が子供たちに伝えるのは限界がある

大学生 ~~→~~ 小・中学生

大学生 → 大学生

大学生 → 大学生への発信

どんな発信方法？

- SNSを用いた発信
- 大学の授業での発信





たくさんの笑顔を
福島に



ふくしまから
はじめよう。

